

まなびの輪

代表者：人文社会科学部現代社会学科 3年 須郷まどか

連携先

大洗町役場 まちづくり推進課
大洗町立大洗小学校
大洗町立大洗第一中学校

顧問教員

横溝 環（人文社会科学部・准教授）

参加者

小堀 紗也香（人文学部社会科学科 4年）
小林 愛鈴
（人文社会科学部現代社会学科 3年）
斎藤 朱里
（人文社会科学部現代社会学科 3年）
須郷 まどか
（人文社会科学部現代社会学科 3年）
田村 捺芽
（人文社会科学部現代社会学科 3年）
中川 珠希
（人文社会科学部現代社会学科 3年）
滑川 みずき
（人文社会科学部現代社会学科 3年）
森 亜由美
（人文社会科学部現代社会学科 3年）
安蒜 ひなた
（教育学部学校教育教員養成課程特別支援
教育コース 2年）

プロジェクトの概要

本プロジェクトは、大洗町役場・大洗小学校・大洗第一中学校・地域ボランティア・保護者の方々と連携し、大洗町在住外国人の

日本語コミュニケーション能力の向上および多文化共生まちづくりの推進を目的としている。今年度は、昨年度に引き続き、①大洗町在住外国人の方々が日本語を学習できる場を設けること、②外国人同士および日本人と外国人のコミュニケーションをはかる機会を設けることで、関係構築をすること、③外国をルーツに持つ児童生徒の学習サポートを行うこと、加えて、④日本語スピーチコンテストの運営・開催のサポートをすることで、外国につながる生徒・児童の学習意欲向上を促し、日本人の多文化共生への興味関心を高めること、⑤活動を通して、地域・自治体間での連携、情報提供の協力をすることを目標とした。

活動内容は、「日本語教室」の開催、外国をルーツに持つ児童生徒の学習支援として大洗小学校・大洗第一中学校で行われている「取り出し授業」への参加とサポート、「新年会」を始めとする地域・国際交流のイベントの参加と開催、「日本語スピーチコンテスト」の運営サポートである。

プロジェクトの成果報告

(1)日本語教室の開催

大洗町在住の外国人の方々に向けて、日本語を楽しく学習する場「日本語教室」を開催している。月に2回、第2・第4水曜日（18：30～20：00）に大洗町役場の会議室で実施している。日本語教室では、学習者のニーズをもとに個々の目標に沿った学習サポートを、地域の日本人ボランティアと共に

行っている。昨年度に引き続き、日本人1人につき学習者1人～複数人の学習サポートを行い、日本語教室終了時に個々の学習内容をルーズリーフに記録した。日本語教室に参加して下さる外国人の方々は、継続的に来てくださる方に加え、新たに参加して下さる方が多くみられた。また、スピーチコンテストの練習をする児童生徒の姿もみられた。スピーチコンテストと日本語教室の活動につながりがうまれたことは、成果の一つであるといえる。



写真1 日本語教室での様子

(2)取り出し授業への参加

大洗小学校および大洗第一中学校では、外国をルーツに持つ児童生徒を対象に、日本語を補いながら教科学習をする「取り出し授業」が実施されている。私たちは、先生方のご指導のもと、取り出し授業に「日本語サポーター」として参加している。具体的には、小学校では、1～3時間目(8:40～11:25)、中学校では、1～4時間目(8:40～12:30)、5～6時間目(13:30～15:20)に参加している。昨年度は、小学校、中学校ともに週2回、午前中の授業への参加にとどまっていたが、今年度からは、中学校の午後の授業へのサポートが加わり、参加回数が増えた

ことによって、私たちが児童生徒と接することができる機会が増加した。児童・生徒の日本語学習のサポートを行うと共に、彼らとの会話を大切にすることで、少しずつ一人ひとりとの距離を縮めることができたことが、大きな成果の一つといえる。

(3)新年会の開催

日本語教室に参加して下さるの方々、地域の方々との関係を深めるきっかけとなる新年会を1月に開催した。新年会では、世代問わず楽しむことができるかるた大会・フルーツバスケット・ビンゴ大会などのゲームを行った。また、外国人やボランティアの方々と共にペルー、インドネシア、日本の料理を共に作る料理大会を行い、世界の食文化に触れた。新年会では、日本語教室で学習する場では見られない、参加者の新たな一面、表情に触れることができ、貴重な時間を過ごすことができた。



写真2 1月開催 新年会

(4)スピーチコンテストの運営サポート

2月2日に茨城大学人文社会科学部講義棟10番教室で開催された「日本語スピーチコンテスト」の運営におけるサポートを行った。このコンテストは、昨年度初の試みとして実施され、今年で2回目の開催と

なった。今年度は、大洗町国際交流協会・ひたちなか市国際交流協会との連携、茨城県・茨城県教育委員会の後援のもと行われた。中国、エジプト、カナダなど計12カ国の外国にルーツを持つ児童生徒が参加した。参加者数は、小学生18名、中学生8名、また来場者数は約140名であった。私たちは、コンテストの開催において、会場設営、受付、コンテストの出場者およびご家族、引率者の方々の案内など、多岐にわたるサポートを行った。児童生徒は、将来の夢や頑張っていること、家族や友人、好きなことをテーマに、それぞれの思いを込めてスピーチした。来場者の方々からは、「子供たちにとって、自信につながる人生を変えるほどの素敵なコンテストだった」「子どもの持つ力や可能性、日本で暮らす外国人について知ることができる場」等のお言葉をいただいた。来年度の開催を期待する声も多く、児童生徒のスピーチと彼らの姿は、運営に携わる人々や多くの来場者の心に深く響くものがあった。出場者の中には、取り出し授業で関係を築いた児童生徒もいた。私たちは、子どもたちが学校で練習に励む姿を目にしていたこともあり、彼(女)らの発表に一層感動した。そして、運営をサポートする私たちが、コンテストに参加する児童生徒と心を通わせることで、彼らの緊張や不安を和らげることができた。



写真3 スピーチコンテストの様子

(5)その他の活動

その他の活動としては、大洗町の夏の行事である八朔祭と盆踊りの夕べに参加した。八朔祭では、インドネシアとペルーの料理、コインケース、マグネットなどの様々な小物の販売の手伝いをし、外国の方々や地域の方々との交流を深めることができた。また、盆踊りの夕べでは、国際交流協会のブースで、外国産のジュースの販売や、国旗や大洗町のマスコットキャラクターであるアライッペのフェイスペイントを実施した。さらに、日本語教室に参加してくださるインドネシア出身の方に、彼らが通う教会のパーティーに招待していただいたこともあった。教会では、インドネシア料理や会話を楽しんだ。普段訪れることのない空間のなかで、異文化体験をすることができた。



写真4 8月開催 八朔祭での様子



写真5 盆踊りの夕べの様子



写真6 インドネシア教会パーティーでの様子

(6)活動の全体成果

日本語教室の開催においては、日本に来て間もない外国籍の方々の、ひらがな、カタカナの読み書き等の日本語能力の習得が実

現した。また、日本語を学び、能力を向上させることを目的として来てくださる方々だけではなく、日本語を話せるようになってからも教室に参加してくださる方も多くいた。日本語を学ぶ場としてだけではなく、居場所としての存在意義も感じることができた。

取り出し授業においては、活動を継続したことにより、児童生徒との関係を深めることができた。大洗小学校・大洗第一中学校の先生方からは「子どもたちは、まなびの輪の学生が来ることをとても楽しみにしている」とのお言葉をいただくことができた。私たちの参加によって、児童生徒の日本語学習の質、および意欲の向上をサポートすることができた。今後も取り出し授業への参加を継続し、児童生徒や小学校・中学校の先生方とより密接な信頼関係を築くことが目標である。

今年度で2回目の開催となったスピーチコンテストは、外国につながる児童・生徒の自己表現の場として意義のあるものとなった。また、日本人の来場者も多く、参加者・運営者の双方にとって、多文化共生について考える貴重な機会となったといえる。そして、運営・開催は、大学・地域・学校の連携と協力によって実現したものであるといえる。

新年会をはじめとしたイベント参加と開催を通して、私たちボランティアと大洗町住民の方々や外国人の方々との親交がより深まった。そして、レクリエーションや料理など、多様な国籍の方々と共に取組むことで、多くの文化や言語に触れることができた。さらに、イベント開催は、日本語教室に来てくださる方々と、日本語

で会話をするきっかけにもなるという点においても意義があると考えられる。

(7) 今後の課題

第一に、日本語教室においては、日本語教室に参加する外国人学習者の関係構築が挙げられる。今年度は、新しく来てくださるようになった方も多かった。継続的に参加していただくために、自己紹介の場を設け、互いのことを知る機会を大切にしたい。私たちボランティアや外国人生徒同士の関係をより深めることで、彼(女)らの日本語教室に通う楽しみが増えると考えられる。第二に、取り出し授業のサポートにおけるシフト管理が挙げられる。取り出し授業に参加するメンバーの確定後、やむをえない理由から、シフトの変更や欠席をせざるをえないことがあった。シフトの作成の時点で、あらゆるリスクを想定し、柔軟に対応できるような工夫が必要であると考えられる。第三に、スピーチコンテストの継続的な開催が挙げられる。そのためには、大学・地域・学校、各組織間の連携の強化が必要であると考えられる。第四に、新たな季節のイベント開催が挙げられる。今年度は、学生主体で開催したイベントは新年会のみであった。来年度は、今年度よりも計画的に大洗町住民の方々との関わりを増やす機会を設けていきたいと考える。

今年度の活動の締めを迎えた2月末には、新型コロナウイルスの影響と流行を懸念し、取り出し授業への参加と日本語教室の開催を休止することとなった。しかし、まなびの輪がこれまで築き上げてきた繋がりや信頼関係に支えられながら、今後も継続して活動に励んでいきたい。